

高 2 難関大英語 S

高 2 難関大英語



17章 比較1

問題

【1】

解答・解説

- (1) d 「こちらの方が驚きだ。」

more better とは言わないが、This is much better. なら可。absolute とか perfect のような‘絶対性・完全性’を表す形容詞は比較級にできない。main は限定用法で用い、叙述用法では用いないのが原則。

- (2) d 「体重を減らせと言われたので、できる限り多く水泳に通いたい。」

○ as ~ as S can = as ~ as possible (できる限り~)

- (3) b 「イーサンは双子の兄より才能がない。」

2者のうちの片方を言及する the + 比較級 + of the two と混同しないこと。本問は普通の比較級の構文である。

cf. Ethan is the less talented of the twin brothers.

- (4) d 「彼の家庭は私たちが初めて出会った時より生活が悪化しているように思われた。」

than があるので比較級にする。

○ be well off (暮らし向きが良い) ⇔ be badly off (暮らし向きが悪い)

- (5) c 「今やますます多くの人々がインターネットに接続している。」

much more は不可算名詞の比較級とみなされる。可算名詞の場合は many more を用いる。many fewer は一般的ではない。

- (6) a 「その問題はいまや（以前と比べて）さらに複雑であるようだ。」

比較級を強調するには、much, far, still, even, yet, a lot などを用い、very は使わない。

- (7) a 「ジョンは私より3歳年上だ。」

elder は限定用法で用い、兄弟姉妹間での上下を表す。本問を John is older than I by three years. と言えなくはないが、この形は by 以下がやや複雑な場合のみに用いとされている。

- (8) d 「この季節の後半が始まったばかりだ。」

late-later-latest (時間的に遅い), late-latter-last (順番が遅い) の違いは大切。

○ the latter half = the second half (後半)

- (9) c 「さらに情報が必要な場合にはカスタマーサービスまで電話してください。」

far - farther - farthest は‘距離’に用いる一方で、far - further - furthest は‘程度・距離’に用いるのが普通。本文では‘程度’を表すため further がよい。(もともと、最近では farther を用いる場合も見かける)。

- (10) a 「この歴史小説は先日読んだものよりはるかに興奮させる。」

比較級の強調。(6)の解説参照。

【2】

解答・解説

- (1) **b** 「合衆国は日本のおよそ 25 倍の大きさである。」
= The U.S. is about 25 times as big as Japan.
- (2) **d** 「こちらはあちらよりよくない。つまり、あちらの方がこちらよりよい。」
'less + 原級' は劣等比較とも呼ばれる。もっとも、本問の This is less good than that. という英文は、This is not as good as that. とした方が自然である。
- (3) **d** 「私の父は頭脳派というより肉体派である。」
本問では父を誰かと比べているのではない。このように同一（人）物の性質や状態などを比べる場合には -er 型の比較級を取る形容詞であっても more ~ than … の形となる。
Ex. He is more kind than clever. cf. He is kinder than she is.
- (4) **b** 「この湖はこの地点が一番深い。」
(3) と同じように、同一（人）物の性質や状態などについての比較を表す形容詞が補語として用いられている場合には、普通 the をつけない。
Ex. He was happiest last year. cf. He was the happiest in our class.
- (5) **d** 「このシャツはファッショナブルというよりはむしろ快適です。」
○ A rather than B 「B というよりむしろ A」
- (6) **d** 「この携帯電話はあれと比べてはるかに劣っている。」
than ではなく to を用いて比較の意味を表す表現がある（ラテン・ギリシア系比較と言われることもある）。その場合はもちろん more を用いない。
e.g. senior（年上の）、junior（年下の）、superior（優れた）、major（大きい方の）、minor（小さい方の）、prior（前の）、posterior（後の）などがある。
- (7) **a** 「彼は上流階級から名声を獲得した。」
特定の何かと比べるのではなく、比較対象をはっきり示さず漠然と程度の高いことを表す絶対比較級という用法がある。the lower animals（下等動物）⇔ the higher animals（高等動物）、the older generation（歳を取った世代）⇔ the younger generation（若い世代）などのように対になる場合が多い。
- (8) **b** 「このトランペットは2つのうちでよい方だと思う。」
特に書き言葉で2者の内「～な方」という場合には、比較級に the を付け、the + 比較級 + of the two の形となる。
- (9) **d** 「これは私がこれまで見た中でずば抜けて最高級の絵画です。」
日本語では「これまで見たことのない絵画」と言った場合に、never にしないように注意。
- (10) **d** 「私たちはこんなうさんくさい話を信じない分別を持つべきだ。」
○ know better 「分別がある」、know better than to do 「…しないだけの分別がある；…するほどバカではない」

【3】

解答・解説

- (1) is → are, as longer than → as long as, that → those

「私の犬の耳はあなたの犬の耳の2倍の長さがある。」

さらに two times を twice に書き換えてもよい。

- (2) as great painter → as great a painter

「トーマスはこの国では古今稀なほどの優れた絵描きだ。」

He is such a rich man that he can buy anything. = He is so rich a man that he can buy anything. と同じように、as は比較の副詞のため、as a great painter とはならず、as great a painter という語順となる。

○ as ~ as ever lived 「古今稀なほど〜だ；これまでの誰にも負けないほど〜だ」

- (3) commonest → commonly

「最も古く、最も一般に知られている計算機はそろばんだというのを知っていますか。」

commonly known を最上級にすると the most commonly known となる。

- (4) other を取る。

「東京には筑波山より高い建物はない。」

other (他の) を入れるのは同じ種類を比べている場合のみ。例えば、「スカイツリーより高い建物はない。」ならば、No other building is higher than the Tokyo Sky Tree. となり、この場合の other building は「スカイツリー以外の建物」を示す。

- (5) more interesting → the more interesting

「私はサッカーと野球が好きですが、2つのうち、サッカーの方が面白いと思います。」

2者のうち「〜の方」という場合には the + 比較級となる。

- (6) much more → many more

「今度のオリンピックで、日本はどの国よりもはるかに多いメダルを取ることを望んでいる。」

much more は不可算名詞を形容する場合に用いる。可算名詞の場合には many more となる。また、最上級を書き換えると‘比較級 + than any other + 単数形’となるのが普通だが、口語では‘than any other 複数形’とすることもある。

- (7) as child → as a child

「あなたが大人になった時、子供として持っていた気持ちほど新鮮なものはない。」

as child as を比較と考えると、英文がおかしくなる。

- (8) sleep を取る。

「疲れて眠くなって家に帰った時でも、私はアラームをかけることすらしなかった。というのは7時に起きられると依然確信していたからだ。」

not so much A as B (AというよりむしろB) ではなく、not so much as ~ (〜すらしない) と考える。

- (9) which を取る。

「わが国で最も必要としないものは、どんなにささいなものであれ、再度の戦争である。」

The last thing の後に関係代名詞 that が省略されている。主語は The last thing であ

り動詞が is となる。

○ the last ~ 「もっとも ~ (しそう) でない」

Ex. He is the last person to do it. (彼はそれをもっともしそうにない人です。)

(10) I have to make yourself happy → I have to make you happy

「私があなただを幸せにできる力より、あなたが自身を幸せにする力の方が大きいはずだ。」

than 以下は I が主語になっているから yourself ではおかしい。

【4】

A.

全訳

人をひきつける際に覚えておくべき1つの重要なことは、広告は人々が簡単に読める言葉で印刷されるべきだということである。英語は世界の商用語であるばかりでなく、事実上全世界の第2言語であるという点で強みがある。例えば、イギリスの製造業者がデンマーク語を使うことは、デンマークの製造業者が英語を使うことほど重要ではない。

B.

全訳

確かに、都会に住む人々は自給自足の生活ができないので、毎日の必需品を他人に依存しているが、田舎に住む人々よりも特定の個人に依存することは少ない。さらに、都会の人々は田舎の人々よりも大勢の人間を知っているかもしれないが、毎日会う人々の中で実際に知っている人の割合は、田舎の人々よりもはるかに低いし、その知り方の程度も浅い。

C.

全訳

彼はその問題に関係のあるもので入手できる本はすべて6週間で習得してしまった。——これは普通の状況ならば、6ヶ月かかってもまずやりとげられなかったであろう仕事であった。

【5】

解答

(1) ① developed ④ held

(2) surroundings

(3) **ア c イ a**

(4) ① not ② at ③ as ④ where

(5) 「全訳」の下線部③、⑤参照。

解説

(1)

①受動態なので過去分詞にする。

④ view を修飾する分詞に変えればよい。by most experts (専門家によって) と動作主が表されているので、過去分詞にする。

= This view, which is now held by ~

(2)

ℓ. 6 surroundings も「周囲の環境」の意を表す。「自然環境」の意では environment のみ。

(3)

- a 他方では (イ) b 実を言うと c ある程度 (ア)
d それどころか e 結局 f 概して

(4)

- Ⓐ whether or not ~ 「～かどうか」《主語になる名詞節》
Ⓑ at random 「無作為に；手当たり次第に」
Ⓒ as ~ as ... 「…と同じくらい～」
Ⓓ 場所を表す語を先行詞とし、後続する節で副詞として働く関係詞なので where が入る。

(5)

- ③◇ amount of ~ 「～の量」
◇ make A out of B 「BからAをつくり出す」
◇ a child born with low intelligence 「低い知能を持って生まれた子供」
⑤◇ 'the 比較級 ..., the 比較級 ~' 「…すればするほど～」
◇ be likely to do 「…しそうである；多分…するであろう」
◇ in intelligence 「知能の点で」《限定を表す in》

全訳

生まれつき頭のいい人と悪い人がいるのだろうか。それとも知能は環境や経験によって伸びるものなのだろうか。不思議なことに、これらの問いに対する答えは両方とも「はい」である。ある程度我々の知能は生まれつきのものであり、③特別な教育をどんなに施しても低い知能で生まれた子供を天才にしたてることはできない。他方では、退屈な環境の下で暮らす子供は、豊かで変化に富んだ環境の下で暮らす子供よりも知能が伸びないだろう。このように人の知能の限界は生まれた時に決まるが、人がその限界まで到達するかどうかは環境によって決まるのである。いまやたいていの専門家によって支持されているこの考え方は、多くの点で裏付けられる。

知能がある程度生まれつきのものであることを示すのは簡単である。⑤2人の人間の血縁関係が近ければ近いほど、知能程度も近くなりやすい。従って母集団から無作為に血縁関係のない2人の人間をとりあげると、知能程度は全く異なっていることが多い。他方では、一卵性双生児の場合は知能が同じである場合が多い。兄弟姉妹や親子のような関係の場合はたいてい知能が近く、知能が生まれによって決まるということはこれによって明らかにわかる。

さて、一卵性双生児を違う環境においてみると想像してみよう。例えば1人を大学に、そしてもう1人を仕事の退屈な工場に送るとしよう。すぐに2人の知能の伸びに差が現れ、生まれと同様に環境も知能に影響を及ぼすということが指し示されるだろう。血縁関係は全くないが、身近に接触して暮らす人々が似たような知能程度である場合が多いということからも、この結論は示唆される。

注

- ℓ. 1 ◇ some ~ others … 「～する人もいれば…する人もいる」
 ◇ be born C 「Cの状態生まれる」
- ℓ. 2 ◇ strangely enough 「不思議なことに」
- ℓ. 6 ◇ varied 「様々な；変化に富んだ」
 ◇ surroundings 「環境；周囲」
 ◇ thus 「このように；従って」
 ◇ fix「①～を固定する ②～をじっと向ける ③～を決める ④～を修理する」《多義語》
- ℓ. 7 ◇ depend on 「①～に頼る ②～によって決まる」
- ℓ. 8 ◇ expert 「専門家」
 ◇ support：ここでは「～を証拠立てる；～を裏書きする」
 ◇ a number of 「①多くの～ ②若干数の～」
 ○ どちらの意味になるかは文脈による
- ℓ. 9 ◇ It is easy to show that ~ 「～ということを示すのは簡単だ」
 ○ it は that ~ を受ける形式主語
 ○ something (that) we are born with と 関係詞を補って考える。
- ℓ. 11 ◇ unrelated 「無関係の」
 ◇ population 「《統計》母集団」
 ◇ it is likely that ~ 「～しそうである；多分～だろう」
- ℓ. 12 ◇ degree 「程度」
- ℓ. 13 ◇ likely (ここでは副詞用法) 「多分；おそらく」
- ℓ. 15 ◇ suggest 「①～をそれとなく示す ②～を提案する」
- ℓ. 17 ◇ might：仮定法《仮定的な空想》
 ◇ one ~ the other … 「(2つのうち) 1つは～, 残りの1つは…」
 ○ and (send) the other to ~ と補って考える。
- ℓ. 18 ◇ indicate 「～を指し示す」
- ℓ. 19 ◇ A as well as B 「B同様にAも」
 ◇ play a part 「役割を果たす」
 ◇ conclusion 「①結論 ②終末」conclude v.
 ◇ the fact that ~ 「～という事実」
 ○ the fact と that ~ は同格
- ℓ. 20 ◇ people は直後の who … と but who ~ の2つの関係代名詞節に修飾されている。
 ◇ in close contact with each other 「互いに密接な関係で」
 ○ 状態を表す in

【6】

解答

- (1) a (2) a (3) a (4) a (5) c
(6) c (7) c (8) c (9) b (10) c

解答

(1)

a 「霜は、周りの丘陵地帯よりも盆地や低地によく降る。」

◇ frequently 「頻繁に」の意の副詞。比較級は、more frequently である。語尾が -ly で終わる副詞の比較級は more を用いる。ここで比較されているのは、in valleys and on low ground と on adjacent hills であり、空所直後の on に惑わされて、than のない b を選ばないように注意。

◇ valley 「周囲より低くなった土地；谷間；盆地」

日本語の「谷」とは異なる。山と山に挟まれた、なだらかで広い土地を指すことが多い。しばしば川が流れている。

◇ adjacent = next to or near something

(2)

a 「彼女はほとんど私たちを見ようとしなかった。ましてや話しかけることなどなかった。」

◇ still less *do* で「まして…でない」という意味。(= much less *do*)

◇ scarcely 「ほとんど～ない」(= hardly)

◇ bother to *do* 「わざわざ…する」 通常、否定文で用いる。

(3)

a 「ブラジルではサッカーほど人気のあるスポーツは他にない。」

◇ ‘否定語 ~ + so [as] + 原級 + as …’ で「何も…ほど～ない」という意味になる。

Ex. No dictionary is so useful as this. (これほど役に立つ辞書はない。)

(4)

a 「東京の人口は大阪のそれよりも大きい。」

◇ population (人口) の「多い」「少ない」は large / small と表現する。

◇ that は the population を指す。

(5)

c 「その男は自分の名前をサインすることさえできない。」

◇ not so much as *do* で「…さえしない」という意味になる。

Ex. She did not so much as smile at the audience.

(彼女は聴衆にほほ笑むことさえしなかった。)

(6)

c 「日本にあるディズニーの遊園地は、フロリダやカリフォルニアにあるものよりも大きいですか。」

◇ ones は amusement parks の代わりに用いられている。

◇ an amusement park 「遊園地」

(7)

c 「株価が下落すればするほど金の価格が上昇するということは一般的に正しい。」

◇ 'The + 比較級~, the + 比較級 …' 「~すればするほど, それだけますます…」

Ex. The more you practice, the more you will improve.

(練習すればするほど上達する。)

◇ stock market 「株価; 株式市場」

(8)

c 「光は音よりもずっと速く伝わる。」

◇ 最上級を強める時には much を用いる。by far や very を用いることもある。

◇ travel 「(音・光・知らせなどが) 伝わる」

(9)

b 「彼は父親とほぼ同じ身長だ。」

◇ almost は通例, 修飾する語句の前に置く。

(10)

c 「最も有能なチンパンジーでさえ空が飛べないのと同じように, 話すことはできない。」

◇ A is no more B than C is D. (AがBでないのは, CがDではないのと同じだ。)の構文。

【7】

解答・解説

(1) Tom has half as many books again as Mary does; she has 200.

「トムはメアリーの1.5倍多くの本を持っています。メアリーは200冊持っています。」

◇ half as ~ again as … 「…の1.5倍～」

(2) There is nothing she likes so much as the smell of roses.

「バラの香りほど彼女が好きなものは何もない。」

選択肢に there があることから, There is 構文と推測した上で, 語句を並べ換えていくとよい。

(3) Happiness lies not so much in wealth as in contentment. [Happiness lies not in wealth so much as in contentment.]

「幸せは, 富の中というよりむしろ満足感の中にある。」

◇ not so much A as B = not A so [as] much as B 「AというよりむしろB」

(4) This new amusement park is four times the size of the old one.

「この新たな遊園地は, 昔と比べ4倍の大きさです。」

◇ ' ~ times as + 形容詞 + as …' = ' ~ times the + 名詞 + of …'

Ex. This river is twice as long as that one.

= This river has twice the length of that one.

(この川はあの川の2倍の長さだ。)

【8】

解答例

- (1) It was stupid of me not to think of that.
- (2) It was stupid of me to leave my umbrella in the train.
- (3) You are on the wrong train.
- (4) That's not the end of the story. I failed the entrance examination.
- (5) I mean it.
- (6) I don't see it that way.
- (7) Please take care of yourself.
- (8) Be careful of what you say.

解説

形容詞の中には文中の他の要素と結合して一定の型 (pattern) を作るものがある。

brave, careless, clever, (in)considerate, crazy, cruel, foolish, generous, good (親切な), honest, (un)kind, naughty, nice, (im)polite, reckless, rude, selfish, sensible, silly, stupid, thoughtful, thoughtless, wicked, (un)wise, wrong といった形容詞は

You are kind to say so. = It is kind of you to say so.

という型をとる。

本問はこのパターンの練習問題。

- (1) この「思い付く」は think of がよい。

Ex. Now why didn't I think of that?

(どうしてそんなこと思い付かなかったのかしら [私って馬鹿ね]。)

- (2) 「電車で傘を忘れる」は leave one's umbrella in the train が無難な表現。具体的な場所を伴う時は forget ではなく leave を用いる方が普通とされる。

本問は解答例以外に I foolishly left my umbrella in the train. としてもよい。

- (3), (4) ととも会話の決まり文句なのでそのまま覚えこむのが望ましい。

- (3) 「電車を乗り間違えていますよ」と言う時の決まり文句は You are on the wrong train. である。wrong の前に定冠詞の the がつく点と、前置詞が on である点に注意しよう。これは、「電車に乗る」は, get in [into] ではなく, get on を用いて, get on the train と言うので, on を用いると考えるとよい。また, take を用いて, You have taken the wrong train. としてもよい。

なお, ここでの wrong の反意語は right で, 自分の乗っている電車が正しいかどうか確認する場合には, Am I on the right train to Ebisu? (この電車は恵比寿に行きますか。) と言うこともついでに覚えておくこと。

- (4) 「それだけならいいのですが」の様に, 話がまだあることを伝え, 話を続ける場合の決まり文句には,

That's not the end of the story.

There's more to it than that.

I'm not finished yet.

などがあり, ひとまずこの1文を言った後で, 次の文を加える。

最後の be finished という形は、一見簡単そうだが完全に覚えていないと使いこなすのは難しい表現。この be finished は、受身形ではなく、本来は完了した状態を表す 'be + 自動詞の過去分詞' で一種の完了形と考えられる。

Ex. Are you finished with your work? (もうお仕事はお済みですか。)

I'm finished now. (もう終わりました。)

「受験に失敗したのです」は、

I failed the entrance examination.

(「試験で失敗する」と言う時は fail in よりも fail が普通)

I failed to pass the entrance examination. (fail to do 「…しない [できない]」)

とする。なお、「話はこれで終わりです」と言う場合は、

That's all.

This is the end of the story.

That's all there is to it. (all と is を強く言う) などを用いる。

(5)

「本気で言っているんです」を3語で言えば、I méan it [that]. となる。これは I méan what I sáy. と同意で、入試ではともに頻出する。

(6)

see は「見据える」という意味から、「心の中で見る → 理解する」という意味を持つようになった。ここでは、この see を用いて、「私はそのようには理解していません。」という文を作ればいい訳だが、I don't see so. とはあまり言わず、I don't see it that way. というのが自然な英語である。これは、「そう言って下さるとはご親切なことです」と言う時、

It's kind of you to		say so.		yourself.
		put it that way.		

となり、put を用いる場合は、put so とは断じて言わないのと同じ。

(7)

「～にお気をつけ下さい」は、大半が Please take care of ～ と書き出せたとする。take care of ～ の代わりに look after ～ はよいが、be careful of ～ は不可。careful は「間違いを起こさないよう気をつける」の意味なので、それだと「～に警戒せよ」の意味になってしまう。問題は「体」をどう処理するかであるが、ヨーロッパ文化では 'body (肉体) + soul (魂) = oneself (自己)' と考えるので、body だと dead body つまり「死体」を意味するのが普通。したがって、your body は不可。yourself としなくてはならない。以上をまとめると、

Please		take care of		yourself.
		look after		

となる。なお、「体」を「健康」と置き換えて考えて、

Please		take care of		your health.
		look after		

とするのも可能。また、会話で、親しい者同士なら、Take care. も可能。

(8)

本問の「言葉に気をつけなさい」の「言葉」は「言葉づかい」という意味で用いられているのは明らかである。また、(7)で説明したように、carefulは「間違いを起こさないように気をつける」という意味なので、本問では用いることができる。そのまま用いれば、

Be careful of | what you say.
| your language.

とするのは容易。また、「言葉の選択は慎重にせよ」と意味をとって、

Be careful in your choice of words.

としてもよい。また、weigh [wéi] (～をよく考える)を用いた慣用的な言い方に、

Weigh your words carefully.

がある。皆さんの中には、

Watch |
Mind | your language.

とした人もいると思う。これは無論間違いではないが、けんかを売るような場合の強い語調を表し、日本語で言うなら「口のきき方に気をつけろよ」に当たることを覚えておこう。

今日の一言

A rolling stone gathers no moss. 「転石苔を生ぜず。」

rolling は stone を修飾する現在分詞である。元来、この諺は「いつも旅をしている人は1ヵ所に根付けない、すなわち成功しない」という意味だったが、次第に「いつも新しい環境に身を置く人は自分を向上できる」というよい意味も付け加えられた。前者から言うと、あれこれと問題集に手を出すのではなく、まずはこのテキストをしっかりとマスターしてほしい。後者から言うと、過去のことにはこだわらず、常に新鮮な気持ちでページを開いて問題を解いていこう。